

地域の工芸品デザイン開発指導 — 桐工芸品のデザイン開発 —

工芸・意匠部 佐藤 茂

1. 緒言

今日、商品が選択される要因あるいは差別化の要因として、機能、価格、品質以上にデザインの占める割合が大きくなってきている。スタイリング、色、実用性などトータルバランスされたモノのみならず、ひとつのアイデア、ひとつのテクノロジーを加味する、いわゆるプラス・ワンを持たせることも必要である。

2. 内容

ピンナップ、スツール、シガレットボックス、名刺入れ、照明、小箱のアイテムについて試作した。一般的にキリ材のみならず木材は製材する段階で、製板される。しかし、キリ材はその軽量の故ブロックとして扱うこともできる。原木を輪切りにしたり、そのまま使ったりというのは今までの桐製品になかった考えであろう。さらに、加飾に関しては次のことが言える。従来の加飾法としてはウズクリ仕上げが主であるが、キリ材の持つ材色をいかして、簡易印刷手法を用いた。また部分的に焼き仕上げ法を用いることにより明暗がはっきりした感じが得られた。

3. 結言

今回の試作ではキリ材の素材としてのアイデア、またその加飾方法だけに終わってしまったが、従来の商品にあるような、体の寸法や動きに合わせた作り方、またそのモノの使われ方を考慮した上での収まり方など、寸法を押さえていく必要がある。

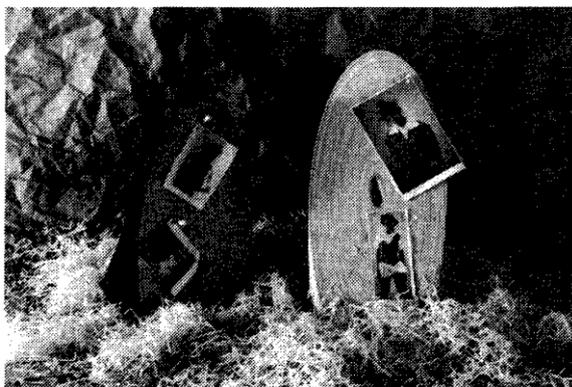


写真1

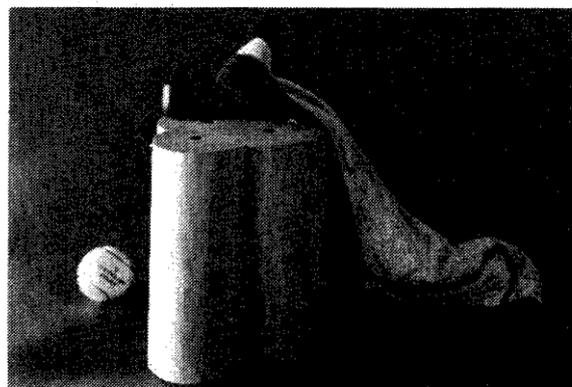


写真2



写真3



写真4

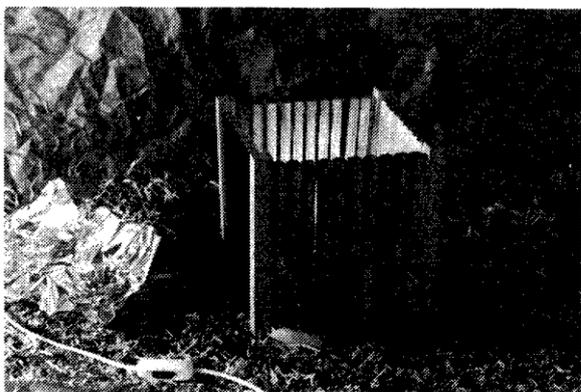


写真5

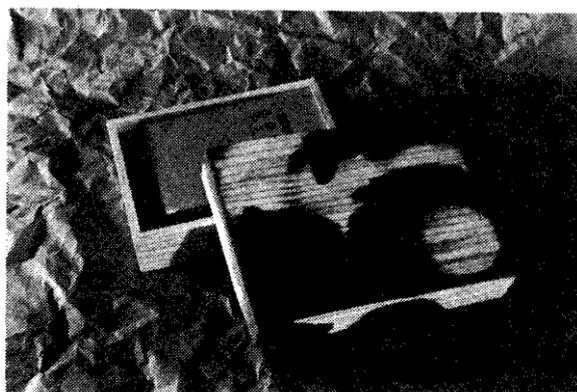


写真6